慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	BIS自己資本比率規制下における銀行株価に関する一考察
Sub Title	
Author	浅野健二郎(Asano, Kenjirou) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第582号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0582

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0582

学生氏名　浅　野　健二郎　（株式会社住友銀行）

所属ゼミナール　矢　作　恒　雄　研

主査　矢　作　恒　雄

副査　伏　見　多美雄

青　井　倫　一

BIS自己資本比率規制下における銀行株価に関する一考察

1988年7月、BIS（国際決済銀行）の銀行規制監督委員会による「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化」が了承され、今後BIS加盟国の国際業務に携わる銀行は、1992年末までにこの国際的統一自己資本比率基準を達成しなければならなくなった。そこで当論文では、まずBIS規制が銀行行動に与える影響について、①金融機関のリスク管理、②国際的競争条件の均等化、③基準達成のための具体的行動の3つの側面から分析し、その評価を試みた。そして邦銀の今後の行動の中でも、とくに外部からの資本調達が重要であることを確認し、銀行の株価対策に焦点を当てることとした。

日本の株式市場に関する研究は多数あるが、銀行株に的を絞ったものは極めて少なく、邦銀の株が市場に合わせて変動するようになったのは最近の事である。そこで銀行の株価形成要因について、1984年以降の公表財務データを基に定量的分析を行い、米銀の若干のサンプルと比較しながら、邦銀の株価形成要因として重要な要素を探ることとした。

4行のサンプルによる時系列分析の結果、邦銀の株価は株式市場全体の指標に最も強い影響を受けており、個々の銀行の業績については影響が小さいことが確認された。また東証第一部68行のサンプルによるクロスセクション分析の結果、銀行間の株価の格差はEPSよりも銀行全体の大きさ（総資産）に強く影響されていることが示唆され、銀行間格差は資産量によって今後一層拡大していくと考えられる。また銀行株の流動性の低さについては、他業種との比較によって、流動性の低さ自体が株価形成に悪影響を及ぼしている可能性が示唆され、今後の大量増資に向かって積極的なディスクロージャーの必要性が示唆された。